

鬼籍

時折、著名な方が亡くなられるとメディアで「鬼籍に入られま



した」という事があります。これを初めて字で見た時に疑問に思いました。何故鬼の籍と書くのだろうか。

調べると「鬼」という字は様々な意味が含まれていることがわかったのです。広辞苑で「鬼」と引きますと、

- ①悪神、邪神 ②伝説の山男や異種族の者 ③死者の霊魂
- ④怪物、もののけ ⑤想像上の怪物(赤鬼青鬼など)
- ⑥鬼のような人 ⑦毒見役 ⑧紋所 ⑨名詞の上に付き、勇猛さや無慈悲を表す(鬼武者など)

と出てきます。これらの中では「鬼籍」の場合には③の意味が合いそうなのですが、少し違和感があります。

今度は日本で「鬼」の語源を調べるとよくわかったのです。「おに」は「隠」の訛りであると。字の通り「見えないもの」ということなのです。つまり「死者」ということです。

死者の籍に名を連ねたということが「鬼籍に入る」と

いうことがわかりました。ここから

「鬼籍簿」死者の名を記す帳面が派生

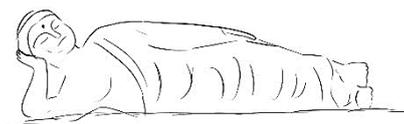
し、現代では「過去帳」となったのです。



コロナ禍でもできる子供会
考えましたよ、
若任丸

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



北枕

約二五〇〇年前の二月五日、お釈迦様が入滅をされる時沙羅双樹の元で、頭を北側に顔を西向きにして、右脇が下側

に来るように横になりました。このことから、ご遺体を北向きするという風習「北枕」が始まったと言われます。だからといって北枕に必ずしもしなくてはならないという事ではありません。むしろ、

また、普段北枕で寝るのは死者の寝る方角だからやめなさいと気にされる方が時折おられます。これは死を不吉と見る悲しい生き方をしておられる方のお言葉です。全く気にする必要はありません。

この反対に、北枕は健康にいいという言い方もあります。頭寒足熱、頭は冷やして足は温める。北は寒い、南は暖かい。そして右を下にすることは心臓が上に位置することから血流もよくなる・・・という説を唱える方もおられます。

ここで私自身書いていて疑問が生まれました。

お釈迦様の入滅のお姿を根拠として「北枕」が始まりましたが、そもそもお釈迦様が北枕にしたのは何故なのか。どうやら古代インドの風習で「北枕」にしていたようですが、それがどうしてなのか、まだ分かりません。